北京共同ゼミ 「日本学研究—日本語学・日本語教育・日本文学の視点から」	
日　時	2009 年 10 月 15 日（木）～20 日（火）
会　場	北京日本学研究センター（中国、北京市）
主　催	日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成プログラム、 お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター、北京日本学研究センター
日本側 参加者	高崎みどり、荻原千鶴（以上、本学教授） 石井佐智子、井之浦茉里、王湘榕、川﨑美香（以上、本学博士課程学生）
中国側 参加者	徐一平、曹大峰、施建軍、譙燕、張龍妹（以上、北京日本学研究センター教授） 黄毅燕、张林（北京日本学研究センター後期課程学生） 倪錦丹（北京日本学研究センター前期課程学生）

上記合同ゼミは、爽やかな北京の秋空のもと、北京日本学研究センターにおいて開催された。北京外国語大学の緑豊かな広々としたキャンパスの中にあるセンターで、充実したゼミの時間を持つことが出来た。以下のような内容で、教員・院生あわせて 10 本の講演・研究発表あり、すべて日本語で行われた。

（1）北京日本学研究センターの教員、院生の発表	
施建軍	小説・話し言葉における擬声語・擬態語の使用実態
黄毅燕	「VP+の」の意味指示と VP 構造の関係—「VP+の」が目的語を構成する場合
张林	北京語母語話者の日本語発音特徴——両唇摩擦音を中心に
倪錦丹	竹取物語の物語性—「罪」をめぐって

（2）お茶の水女子大学の教員、院生の発表	
高崎みどり	テクスト・談話における引用表現について
荻原千鶴	『万葉集』初期の挽歌
石井佐智子	基本動詞「とぶ」の多義構造—比喩による意味拡張の観点から—
井之浦茉里	人形浄瑠璃の歌舞伎化について
王湘榕	日中文章の比較
川﨑美香	『古事記』における兄弟—皇位互譲について

以上である。各々の発表内容については、以下の発表報告を基にした論文を参照されたい。

いずれの講演内容・発表内容とも、日本文学・日本語学・日本語教育のホットなテーマが取り上げられ、質疑応答も、水準の高いもので、充実したジョイントゼミとなった。“日本学”ということを共通の関心として、学生たちが所属の別なく、日ごろの研鑽の成果を披露しあい、緊張の中にも共感が生まれていく様子に感動を覚えたことであった。

北京日本学研究センターの先生方や学生さんたちが、学期中の忙しいスケジュールをやりくりして、温かく迎えてくださり、またゼミを効率的に設定・運営してくださったことに、甘えてしまった部分が多かったことを反省している。この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。

【文責：本学教授　高崎 みどり】